



三月(大) 弥生 壁宿

三月五日啓蟄の節より
月命己卯七赤金星の月
暗剣殺西の方

旧 二月小
新 三月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出	月入	満潮	干潮
14日	土	ひのえ たつ	五黄	近江八幡左義長祭	廿九	先負	のぞく	氏	●	5.53 17.48	23.07 8.52	7.24 20.35	1.43 14.06
13日	金	きのこ	四緑	奈良春日大社祭	廿八	先勝	とづ	角	月とく	5.55 17.47	21.58 8.14	7.00 19.42	1.11 13.27
12日	木	きのえ	三碧	奈良東大寺二月堂お水取り、三隣亡、一粒万倍日、不成就日	廿七	佛滅	なる	女	母倉	5.56 17.46	20.47 7.39	6.35 18.54	0.37 12.51
11日	水	みづのとうし	二黒	●望二時四八分、塩竈神社帆手祭、八せん始め	廿六	先負	あやぶ	牛	大みやう	5.57 17.45	19.35 7.03	6.08 18.10	0.01 12.15
10日	火	みづのえ	一白	○望二時四八分、塩竈神社帆手祭、八せん始め	廿五	友引	やぶる	斗	大みやう	5.59 17.44	18.22 6.27	5.41 17.26	11.39 —
9日	月	かのと	九紫	茨城鹿島神宮祭頭祭、旧ねはん会	廿四	先勝	とる	箕	大みやう	6.00 17.43	17.08 5.49	5.13 16.43	11.03 23.22
8日	日	かのを	八白	国際婦人デー	廿三	赤口	さだん	尾	神よし	6.02 17.43	15.55 5.06	4.44 15.59	10.27 22.40
7日	土	つちのとり	七赤	消防記念日、一粒万倍日	廿二	友引	やぶる	柳	百事よし	6.03 17.42	14.43 4.19	4.16 15.11	9.48 21.55
6日	金	つちのえ	六白		廿一	先勝	とる	鬼	神よし	6.04 17.41	13.35 3.27	3.46 12.09	9.03 21.05
5日	木	ひのと	五黄	啓蟄 一時五七分	二十	赤口	さだん	井	神よし	6.06 17.40	12.33 2.31	3.14 12.09	7.48 20.08
4日	水	ひのえ	四緑	旧初午、宮城岩沼竹駒神社初午祭、一粒万倍日、不成就日	十九	大安	さだん	参	神よし	6.07 17.39	11.39 1.32	0.33 9.59	4.01 18.55
3日	火	きのこ	三碧	●上弦四時五七分、新潟浦佐押合祭	十八	佛滅	たいら	觜	神よし	6.08 17.38	10.53 0.32	9.05 —	2.49 17.15
2日	月	きのえ	二黒	旧こと始め、旧針供養	十七	先負	みつ	畢	大みやう	6.10 17.37	10.14 —	8.32 22.13	2.22 15.42
1日	日	みづのとう	一白	春の全国火災予防運動(7日迄)、奈良東大寺二月堂修二会、旧二月小	十六	友引	のぞく	昴	—	6.11 17.36	9.39 23.33	8.06 21.02	1.59 14.47

春らしい陽気の日があると思うと、急に真冬も立ち返つたような寒い日もある月で、気温だけでなく、天候も激しい変わり方をする。関西では、十二日の奈良のお水取りが終わらないと春がやって来ない、と言ひ伝えられ、一方、暑さも寒さも彼岸までと言ふことわざのあるのが、気温の不安定さを物語っているようである。

【冠】三月三日は「桃の節句」である。もともと「上巳の節句」といったもので、これが桃の節句や、雛の節句といわれるようになったのは江戸中期以降らしく、現在のようになら派で雛の形式になったのは近年になってからである。女の子が初めて迎える桃の節句を「初節句」といい、雛人形を飾ってその子の将来を祝う。内裏雛(たいりびな)は、雛人形の典型になったのは、幼女が成長して、よい結婚生活を送るよう願う心の現れである。

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出	月入	満潮	干潮
15日	日	ひのと	六白	京都嵯峨釈迦堂お松明	廿一	佛滅	みつ	房	十し	5.52 17.49	—	—	14.51
16日	月	つちのえ	七赤	●下弦一八時三四分、西宮広田神社例祭	廿二	大安	たいら	心	神よし	5.50 17.49	0.13 10.19	8.16 23.48	2.45 15.54
17日	火	つちのとり	八白	彼岸入り	廿三	赤口	さだん	尾	神よし	5.49 17.50	1.15 11.09	8.48 —	3.31 17.37
18日	水	かのを	九紫	石川気多大社おいで祭(23日迄)、庚申	廿四	先勝	とる	箕	大みやう	5.48 17.51	2.11 12.03	2.45 19.23	6.13 19.23
19日	木	かのと	一白	一粒万倍日	廿五	友引	やぶる	斗	大みやう	5.48 17.51	3.00 13.00	3.26 13.15	8.24 20.32
20日	金	みづのえ	二黒	●春分の日、春分一二時五〇分、彼岸中日、上野動物園開園記念日、不成就日	廿六	先負	あやぶ	牛	—	5.45 17.53	3.44 13.57	3.53 14.42	9.16 21.22
21日	土	みづのとう	三碧	八せん終り	廿七	佛滅	なる	女	母倉	5.43 17.54	4.21 14.55	4.16 15.28	9.16 22.02
22日	日	きのこ	四緑	NHK放送記念日、奈良法隆寺会式、甲子	廿八	大安	おさん	虚	百事よし	5.42 17.55	4.54 15.52	4.39 16.03	10.22 22.36
23日	月	きのこ	五黄	彼岸明け、世界気象デー	廿九	赤口	ひらく	危	天おん	5.42 17.55	4.21 14.55	4.16 15.28	9.51 22.02
24日	火	ひのえ	六白	●朔一八時二八分、三隣亡、一粒万倍日、旧三月大	三十	先負	とづ	室	天おん	5.40 17.55	5.24 16.48	5.00 16.35	10.51 23.07
25日	水	ひのと	七赤	奈良薬師寺花会式(31日迄)、電気記念日	三十一	佛滅	たつ	壁	天おん	5.39 17.56	5.51 17.44	5.20 17.06	11.19 23.35
26日	木	つちのえ	八白	旧ひな祭	三十二	大安	のぞく	奎	●	5.38 17.57	6.18 18.39	5.40 18.10	11.47 —
27日	金	つちのと	九紫	京都表千家利休忌、己巳	三十三	赤口	みつ	箕	十し	5.36 17.58	6.44 19.34	5.59 18.44	0.02 12.14
28日	土	かのを	一白	東京品川千体荒神大祭、京都裏千家利休忌、大つち	三十四	先勝	たいら	胃	大くわ	5.35 17.59	7.11 21.27	6.37 19.20	0.50 13.09
29日	日	かのと	二黒		三十五	友引	さだん	昴	大みやう	5.32 18.00	7.41 22.25	6.18 20.01	1.14 13.39
30日	月	みづのえ	三碧		三十六	先負	とる	畢	神よし	5.30 18.01	8.50 23.24	6.57 20.51	1.38 14.13
31日	火	みづのとり	四緑	一粒万倍日	三十七	佛滅	やぶる	觜	大みやう	5.29 18.02	9.33 —	7.42 22.00	2.03 15.00

【婚】婚礼の最も多い月のひとつである。ことに大安の日となれば、式場はスケジュールが完全にうまくまわっていく。誰しもがよい日を選ぶのは当然であるが、婚礼は本人同士の誓いを中心に近親の承認と祝福を得れば十分。結婚披露宴は、大宴を張るよりも時間内にムードを盛り上げるよう工夫しよう。

【葬】彼岸入りから彼岸明けまでの「春分」を中心にした七日間は春のお彼岸である。真西に太陽が没するこの期間、西方に浄土があるという仏教の教えから、無欲悟道の彼岸の域に一番近い日とされ、死者の冥福を祈り、仏供養、墓参りなどをとする。

【祭】奈良東大寺の二月堂では、十三日未明に堂前の若狭井の水を汲んで加持の行う。これは厳しい戒律のもとに千数百年にわたって続けられていたが、国数種の重要行事である。春分、秋分に最も近いつちのえの日を「社日」といい、農耕の神を祭る。社日の社は「示」と「土」から成り立ち、土の神の意味である。